

# 南湖に放流したホンモロコ標識魚(平成26年度放流群)の追跡調査

太田 滋規

## 1. 目的

かつてホンモロコの主要な産卵場であった南湖は、現在ほとんど産卵が確認されなくなっている。そのため、産卵繁殖場から北湖までの連続性を確保した水草刈り取りおよび標識種苗放流を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗(以下南湖放流魚)を追跡調査することにより、南湖から北湖への移動分布の把握と産卵状況および親魚来遊状況調査によりホンモロコ再生産を確認し、増殖促進効果を実証する。本項では平成26年に下笠地先で放流されたホンモロコの追跡調査を報告する。

## 2. 方法

①親魚来遊状況調査：春期(平成27年3~6月)に、南湖の北山田沖および赤野井湾沖で漁業者の傭船による刺網調査を行った。3月は上中下旬に2地点を3回、4月以降は2地点の調査を各月1回行った。採捕されたホンモロコ親魚はALC耳石標識を確認した。

②産卵状況確認調査：春期(平成27年4月上旬~6月中旬)にはほぼ毎週1回、稚魚放流地点付近や下笠造成ヨシ帯を中心として、産卵の有無を調査した。

## 3. 結果

①親魚来遊状況調査：ホンモロコ親魚は北山田沖で計7尾が採集され、そのうち2尾が南湖放流魚であった。赤野井湾沖では計5尾が採集され、そのうち1尾が南湖放流魚であった(図1)。昨年と比べて、大幅に減少した。

②産卵状況確認調査：述べ12日間の調査の結果、4月15日、5月7日、14日に放流場所付近のヤナギの根に小規模なホンモロコの産卵が確認された(図2)。他の場所での産卵は確認できなかった。

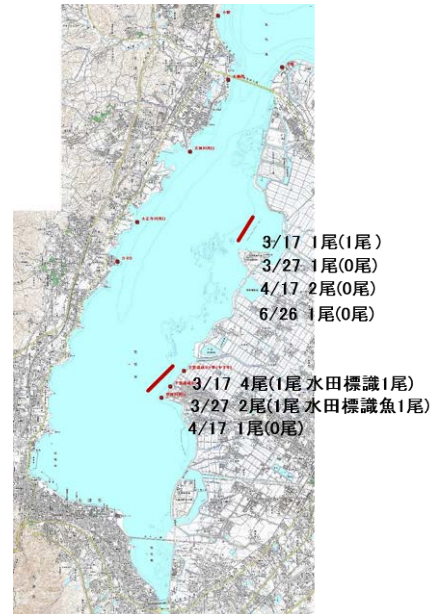


図1. 南湖での刺網調査地点とホンモロコ親魚採捕尾数  
( )内は南湖放流魚の再捕尾数

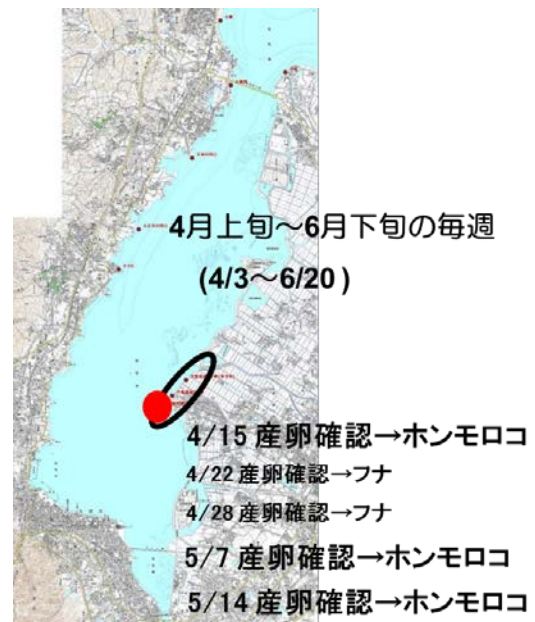


図2. 産卵状況確認調査地点  
●は産卵確認された地点

地図画像：カシミール3D